

---

# OB 通信

2011 年 No.2  
(2011.7)

---

## 第 64 回東北学生陸上競技対校選手権大会

男子 1500m で三上(2)が 3 位、3000mSC で深渡(2)が 2 位、  
男子走り高跳びで山田(1)が 2 位、混成十種競技で藤井(3)が 2 位、  
女子 5000m で及川(3)が 3 位に入賞。他入賞者多数

---

- ・平成 23 年度春季三秀総会 2 ページ
- ・第 64 回東北学生陸上競技対校選手権大会 2～13 ページ
- ・七大学対校戦の展望 13～15 ページ
- ・全日本大学駅伝・女子駅伝東北地区予選の抱負 16 ページ
- ・自己記録更新者一覧 17～18 ページ
- ・OB・OG の皆様へ寄付金のお願い 18～19 ページ
- ・平成 21 年度卒業 OB・OG の方々からのご支援について 20 ページ
- ・今後の予定 20 ページ
- ・編集後記 20 ページ

成夏の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり、誠にありがとうございます。

今号では主に第64回東北学生陸上競技対校選手権大会の結果、全日本大学駅伝・女子駅伝東北地区予選への抱負、七大学対抗戦の展望をお伝えします。

## #平成23年度春季三秀総会(5/28) 於 川内北 C200 講義棟

最初に、震災にて被災された方々に一分間の黙祷を捧げました。その後、佐藤会長、彦坂副会長、宮崎幹事長から挨拶がありました。

議長には岩崎辰哉(M1)が選出されました。

主将の杉本和志(4)より、他大学より頂戴した義援金の用途についての報告がありました。被災状況の大きい部員に対して援助を行い、残りは部費免除という形で部員全員へ支援することが報告されました。

その後、新入部員の紹介が行われ、出席して下さった先輩方より一言ずつ頂きました。

出席して下さった先輩方(敬省略)

小野寺純雄 宮崎鉄男 佐藤源之 彦坂幸毅 安井誠一郎 吉田真人 小平圭一  
岩崎辰哉

ご出席ありがとうございました。抜けている方がいらっしゃるかもしれませんがご容赦ください。(特に院生の方)

## #第64回東北学生陸上競技対校選手権大会(6/26~28) 於 秋田県営

男子が総合4位。5位であった昨年よりも1つ順位を上げましたが、未だ上位3校との差は大きいまま。コンディションに恵まれず厳しい試合となりましたが、その状況でも多数の入賞者がおり、これから先の対抗戦に期待が持てる結果でした。

### トラック

#### 男子 100m 予選

2-7 5着 畠山 真慈(3) 11"52(-1.1)

3-2 4着 伊藤 亮輔(3) 11"35(-0.7)

DNS 小林 大亮(1)

畠山はまずまずのスタート。中盤以降も順調に加速し、他の選手と競り合いながら5着でゴール。準決勝へと駒を進めた。

伊藤はスタートで多少出遅れたが、その後持ち前の加速で4着を確保し、準決勝に進出した。

#### 男子 100m 準決

2-2 7着 畠山 真慈(3) 11"36(0.0)

3-8 5着 伊藤 亮輔(3) 11"38(-1.4)

小林の欠場で畠山と伊藤の2人が出場。

畠山はいいスタートで序盤までトップ集団についていたが、後半徐々に離され7着でフィニッシュ。

伊藤は再びスタートで少し出遅れるが、中盤の加速で追い上げる。粘りの走りを見せるも先頭との差を埋められず5着。

両者とも決勝進出はならなかった。

### 女子 100m 予選

1-7 5着 中山 なつみ(2) 13"57(-1.9)

強い向かい風でのレースとなった。

中山はスタートで出遅れる形となってしまふ。その後懸命に加速し追い上げるが及ばず、5着でフィニッシュとなった。

### 男子 200m 予選

3-1 3着 伊藤 亮輔(3) 23"06(-1.9)

5-3 1着 高林 佑輔(4) 23"10(-1.3)

DNS 南 共哉(2)

雨が降って風が吹き、厳しいコンディションの中でのレース。南が怪我で欠場。伊藤と高林の2人が出走した。

伊藤は1回の仕切り直しの後にスタート。体が浮きそうになるも、中盤の加速でコーナーを抜けて先頭集団。後半もポジションを維持し、そのまま3着でフィニッシュ。

高林はスタートからぐんぐん加速して外側の選手に差をつけていく。後半少し走りが小さくなったが冷静な走りで1着でフィニッシュ。

2人とも準決勝進出を決めた。

### 男子 200m 準決

2-8 4着 伊藤 亮輔(3) 22"50(+0.1)

3-6 6着 高林 佑輔(4) 23"06(-1.8)

伊藤は落ち着いたスタートから、素晴らしい加速でコーナーを回る。後半に入っても走りがあまり崩れず、自己ベストでは格上の選手たちと競り合うもあと一步及ばず4着でゴール。自己ベストを記録したが決勝進出はならなかった。

高林はスタートで出遅れてしまふ。その後素晴らしいコーナリングで中盤に追い上げを見せ、後半も粘りの走りで前との差を詰めるも及ばず、6着でフィニッシュ。

### 男子 400m 予選

1-6 3着 高林 佑輔(4) 49"60

3-5 2着 田中 裕志(M2) 50"13

DNS 南 共哉(2)

高林はスタートから安定した走り。後半に入ってもそれほど減速することなく、ラストの直線で前の選手を抜くことはできなかったが、そのまま3着でフィニッシュし自己ベストを記録。決勝へ進出した。

田中は最初の100mを落ち着いた入りで、バックストレートを快調に飛ばす。最終コーナーを出る時点では2着争い。競り勝ち2着となるが、惜しくもプラスで拾われずに決勝進出はならなかった。

### 男子 400m 決勝

7位 高林 佑輔(4) 49"69

自己ベストを記録し、勢いのある高林が出場。

序盤から積極的なレースを展開し、200m付近では表彰台を狙える位置につく。最終コーナーを回ったところで2位以降が塊となってラスト勝負となるが、あと一步粘れず7着でゴールした。

### 女子 400m 予選

1-6 4着 下島 千歩(2) 62"21

1-7 7着 房内 まどか(3) 66"75

下島は前半から積極的なレースを展開。後半も良く粘り、4着でフィニッシュ。

房内は序盤少し出遅れる形となる。中盤から後半にかけて前の選手との差と縮めるもあと少し及ばず、7着でフィニッシュした。

### 男子 800m 予選

2組 2着 大野 良輔(3) 2'02"63

3組 2着 辻川 優祐(3) 1'59"58

### 5組 2着 金子 修平(2) 2'00"90

大野の組はスローペースで入る。大野は先頭を引っ張る形でレースを進め、残り200m勝負となる。激しいスパート勝負であったがわずかに競り負け2着でゴール。

辻川は落ち着いた入り。先頭が少し抜ける形のレースとなり、残り200mで2位争い。最後はラストスパートで競り勝ち、2着でフィニッシュ。決勝進出となった。

最終組はスローな入りで、金子は集団の中盤あたりでレースを進める。残り300mでペースが上がり、一人が抜け始めるが金子は粘り強く追う。ラスト100mでは1位の選手に迫るがあと一歩及ばず、2着でフィニッシュ。大野と同様前半のスローペースが災いし、プラスで拾われなかった。

#### 男子 800m 決勝

### 6位 辻川 優祐(3) 2'00"22

辻川が決勝に進出。得点が期待される。

決勝は前半スローペース。400mは集団で60秒程で通過。残り300mで各選手がスパートをかけ始める。辻川は集団後方にいたためか少し出遅れるも、残り200mから追い上げ始め、落ちてくる選手を抜いていき6着でゴール。チームに得点をもたらした。

#### 女子 800m 予選

### 3組 7着 荒木 佳那子(4) 2'47"31

雨の中のスタートとなったが、スタートから前半はキレのいい動きを見せる。1周目は第2グループで通過。その後も粘りの走り続けるが、500m付近で1人にかわされ、そのまま7着でフィニッシュ。

#### 男子 1500m 予選

### 1組 3着 大野 良輔(3) 4'07"26 5着 藤澤 萌人(2) 4'07"59

### 2組 5着 三上 和樹(2) 4'06"50

1組目には今期好調の大野と藤澤が出場。2人そろっての決勝進出を狙う。入りの400mは66"とややスローな展開で大野が前を引っ張り、藤澤は4番手につける。2周目少し落ち込むが、ラスト1周で集団はペースアップ。大野も藤澤も最後まで粘り、大野は着順で、藤澤はプラスで拾われ決勝へ。

2組目には先日3分台を叩き出し勢いに乗っている三上が登場。入りの400mは67"で、三上は3、4番手につける。2周目はペースアップし800mを2'12"で通過、三上の位置は変わらず。ラスト1周で更にペースが上がるが、しっかり対応し時計を見ながら5着でフィニッシュ。決勝へ進出した。

#### 男子 1500m 決勝

### 3位 三上 和樹(2) 3'59"74

### 7位 藤澤 萌人(2) 4'03"65

### 8位 大野 良輔(3) 4'06"42

3選手全員が決勝へ進み、大量得点が期待される。

400m62秒のハイペースで一周を通過。三上は先頭集団につき、藤澤、大野は8位集団でレースを進める。そのまま800mを過ぎ、ラスト一周を迎える時点で三上5、藤澤8、大野9位であった。三上がラスト200mで猛烈なスパートを仕掛け、2人を抜き3位でフィニッシュ。藤澤と大野もラストで一つずつ順位を上げ、7位、8位でゴール。三上は念願の表彰台へ登り、3人で対抗得点9点を得る健闘であった。

#### 女子 1500m 予選

### 1組 7着 村松 純(2) 5'02"38

### 14着 石井 花織(2) 5'39"66

### 2組 4着 及川 まりや(3) 4'54"97

### 5着 鈴木 絢子(1) 4'58"13

天候は曇りで、比較的走りやすいコンディションの中でのレースとなった。

村松と石井の2人が出場。村松は序盤先頭を引っ張り、後半に入ると少し遅れ始めるが、粘りの走りを見せ7着でフィニッシュ。大学ベストを更新する力走であったが、惜しくも決勝進出はならなかった。石井は序盤で集団から少し離れてしまい厳しい展開となるが、しっかりと自分のペースを刻み、ラスト200mでスパートしてフィニッシュし自己ベストを記録した。

二組目には鈴木と及川。鈴木は大学初レースである。序盤は両者先頭集団でペースを作る。500mあたりで先頭集団は二人を含む5人に絞られ、ラスト1周で集団がペースアップ。及川はつき、鈴木は少し遅れを取る。そのまま及川は4着、鈴木は5着でフィニッシュし、両者決勝進出を決めた。

#### 女子 1500m 決勝

6位 及川 まりや(3) 4'41"64

9位 鈴木 絢子(1) 4'56"88

及川はスタートから先頭に出て集団を引っ張る。鈴木は後方からスタートし、2周目では第二集団につける。ラスト1周で先頭集団がペースを上げ始め、及川は遅れるが粘り、6位でフィニッシュ。一方鈴木は1000m通過後第二集団の前に出て先頭を追うが、及ばず9位でゴール。

#### 男子 5000m 決勝

7位 菅野 均(3) 15'18"86

17位 木村 慎太郎(3) 16'05"35

23位 尾形 洋平(4) 16'27"95

調子を上げてきている菅野、木村、尾形が出場。得点が期待される。

スタートすると、菅野は先頭集団の後ろに、木村と尾形も中盤につける。1000mを

過ぎから先頭集団で揺さぶり合いが始まり、ペースが上がったり下がったりと振るいがかけられる。菅野はそれに対応するが、木村、尾形は遅れてしまう。そのまま終盤に入り、残り1000mで菅野は8位につける。集団のペースが上がり苦しくなるが、スパートして落ちてくる選手を一人拾って7位でフィニッシュし、自己ベストを記録した。木村と尾形はついていけず苦しいレースとなり、それぞれ17、23位でフィニッシュ。



気迫のこもった走りをする菅野

#### 女子 5000m 決勝

3位 及川 まりや(3) 17'37"75

10位 村松 純(2) 18'36"95

18位 小高 真依(3) 20'42"01

DNS 鈴木はるか(2)

鈴木が欠場し、及川、小高、宮城大の村松が出場。特に及川は昨年東北学生新記録を打ち立てており、注目されるレース。

レースは落ち着いた入りで始まる。及川は先頭、村松はそのすぐ後ろ、小高は後方でレースを進める。2000mを過ぎて村松は少し遅れるが集団の中で粘りの走り。及川は依然先頭集団でペースを作る。小高も自分のペースで淡々とした走りを見せる。終盤に入り、先頭は及川を含む4人程に絞ら

れ、ラスト1000mで集団のペースが上がる。残り一周で壮絶なスパート勝負となり、及川も勝負に出るが一步及ばず3位でフィニッシュ。村松も先頭から遅れたものの、気持ちの入った粘りの走りで必要以上に減速することはなく、スパートでペースを上げ10位でフィニッシュ。小高も最後まで落ちていて自分のペースを貫き、18位でゴールした。



先頭集団で勝負する及川

#### 男子 10000m 決勝

- 12位 山本 悠平(2) 32'53"47  
14位 石代 剛之(3) 33'07"97  
16位 稲毛 義樹(M1) 33'13"30

練習から好調を維持している山本、調子の上がってきた石代、今年加入した新戦力の稲毛が出場。

スタートからスローなレース。三人とも集団の中盤につける。1000mを3'14"で通過。そのスローペースのまま5000mを16'20"で通過すると、集団のペースが上がる。ここで石代と稲毛は遅れ始め、苦しい展開となる。山本は食らいついていくが徐々に離され、気迫のこもった粘りの走りをするも、最後は失速し、そのまま12位でフィニッシュ。石代と稲毛も続いてフィニッシュした。

#### 男子 10000mW 決勝

- 7位 角川 拓也(2) 51'41"17

角川一人の出場。上位入賞が期待される。

スタートして序盤は集団についてレースを進める。しかし中盤以降、先頭集団のペースについていけなくなる。終盤は一人旅となり苦しい展開だったが、最後までしっかりと歩ききり7位でフィニッシュ。10000mWの経験を積んでいけば更なる記録の向上が期待できるだろう。

#### 男子 110mH 予選

- 1-7 5着 向出 周太(2) 16"83(-2.6)  
2-2 5着 千葉 優人(1) 16"53(-1.3)  
2-9 6着 永井 雅人(D4) 17"61(-1.3)

雨が降り、強い向かい風が吹く中でのレース。ハードル選手にとっては苦しいコンディションとなった。

向出は一回のフライングがあった後のスタート。落ち着いたスタートではあったが、序盤から先頭に遅れを取ってしまい苦しい展開となる。後半リズムに乗り大きな走りで粘るも、5着でフィニッシュ。ベストに遠く及ばず、悔しいレースとなった。

2組目にはルーキーの千葉と経験豊富な永井が出場。二人ともスタートはまずまずの入りであったがハードリングでずるずると先頭から後退してしまう。永井はハードルにぶつかり、倒してしまったのが大きかったか。そのまま千葉5着、永井6着でゴール。こちらも悔しい結果となった。

#### 女子 100mH 予選

- 2-6 3着 松田 麻李(2) 16"17(-1.3)

宮城大から東北大の練習に参加している松田が出場。雨風で厳しいコンディションの中でのレースとなった。

スタートから体が少し起きてしまったが、素晴らしい加速を見せ、上位とはハードリングで少し差をつけられてしまうものの、食らいつく。そのまま先頭争いから少し遅れて3着でゴール。決勝進出を決めた。

#### 女子 100mH 決勝

#### 7位 松田 麻李(2) 15"97(-1.4)

一度のフライングがあった後のスタート。まずまずのスタートからスムーズなハードリングと加速を見せ、5位争いで団子になった他の4選手と競り合いながら7着でフィニッシュした。

#### 男子 400mH 予選

1-4 2着 千葉 優人(1) 55"47

2-7 6着 向出 周太(2) 61"28

3-7 DNF 保坂 佑斗(2)

ルーキー千葉、向出、保坂の出場。千葉と向出はすでに110mH予選、千葉はマイル予選も走っており、この競技への影響が気になるところ。

1組目の千葉は、前半から攻める走りを見せる。200m通過時点でトップに立ち、後半はややピッチが落ちてくるが粘り、最後の直線で一人に抜かれるものの2着でフィニッシュ。決勝進出を決めた。

向出はスタートから快調に飛ばし、スムーズなハードリングでアウトの選手に食らいつく。しかし6台目から足が合わなくなり、最後は前半飛ばしたのもありバテてしまったが、最後までハードリングはうまくまとめて6着でフィニッシュした。

保坂も前半はしっかり合ったハードリングで快調に飛ばすが、中盤以降遅れ始め、さらに足も合わなくなり、8台目で転倒。懸命にゴールを目指そうとするが、前半の疲労もありハードルが飛べなくなったため、

途中棄権。悔いの残るレースとなった。

#### 男子 400mH 決勝

#### 8位 千葉 優人(1) 57"40

スタートと同時に快調に飛びだし、かなり積極的なレース展開となる。しかしバックストレートが強烈な向かい風のためか、うまく加速できず足がなかなか合わない。300m地点までは粘ったものの、力尽き8着でフィニッシュ。実力から考えても悔しい結果だが、大学での陸上は始まったばかり。これからの活躍に期待したい。

#### 女子 400mH 予選

2-3 4着 松田 麻李(2) 1'07"50

2-5 7着 下島 千歩(2) 1'10"87

下島、松田の2年生2人が出場。

松田は落ち着いた出だしで、得意のハードリングを綺麗に決めて快調にバックストレートを飛ばす。後半疲れで多少足が合わなくなることもあったが、最後は4着争いに競り勝ちゴール。決勝進出を決めた。

下島はスタート直後から軽やかな走りを見せるが、1台目から足が合わない。悪い流れからなかなか抜け出せず、半分を過ぎたあたりで修正したものの、その後疲れで再びハードリングで減速してしまい、7着でフィニッシュ。走力はあるので、ハードリングを修正していきたいところ。

#### 女子 400mH 決勝

#### 6位 松田 麻李(2) 1'05"56(2)

110mHに続いて松田が決勝に出場。

素晴らしいスタートから1台目のハードルでぴったり足が合い、軽快なハードリングでどんどん前が出る。しかし4台目からリズムが狂いだし、足が合わなくなる。その後は足を合わせに行く形になってしまっ

たが、キレのいいハードリングとラスト100mのスプリントで粘り切り、6着でフィニッシュした。

**男子 3000mSC 決勝**

**2位 深渡 慎一郎(2) 9'28"50**  
**12位 尾形 翔平(3) 10'13"69**  
**15位 工藤 佑馬(4) 10'35"03**

深渡はスタートから先頭集団の中でも前の方でレースを進める。工藤と尾形は集団の中盤付近。最初の1000mが3'15程でスローな展開になると思いきや、ここで先頭の選手がペースを上げる。深渡は2位集団の先頭で1位を追うが、尾形と工藤は集団から離れてしまう。2000mを越えて深渡がぐんとスパートをかけ、先頭を追う。なかなか差は縮まらないが、ラスト一周では足をかけない見事なハードリングを利用してぐんぐん加速。トップに追い付くことはできなかったが、2着でフィニッシュした。集団から離れ、中盤から苦しい走りとなった尾形と工藤は粘りの走りを見せるもののなかなか順位を上げることはできず、それぞれ12、15着でフィニッシュした。

**男子 4×100mR 予選**

**2-4 3着 42"44**

**畠山(3)-伊藤(3)-鈴木(4)-高林(4)**

1走畠山は上々のスタート。外側の選手に少し遅れをとったが、良い位置で2走伊藤につなぐ。伊藤は順調に加速しそのまま3走鈴木へ。鈴木は得意のコーナリングで素晴らしい走りを見せ、前との差を大きく詰めた。2着争いをしながら4走高林へ。高林は力強い走りで2着を争う。わずかに及ばず3着でフィニッシュしたが、決勝進出を決めた。

**男子 4×100mR 決勝**

**7位 42"58**

**畠山(3)-伊藤(3)-鈴木(4)-高林(4)**

コンディションに恵まれず、記録を出すのが厳しい状態となったが、部記録更新を目指して予選と同じ4人で挑む。

1走畠山は素晴らしいスタートとコーナリングで、良い位置で2走伊藤にバトンを渡す。この間のバトンパスでもたついてしまったが、伊藤も各校のエースに負けない加速力で快走し、3走鈴木へ。鈴木は3位争いをしながらコーナーを回り、順位を落とすことはなくアンカー高林にバトンを託す。高林は熾烈な4位争い。しかし中盤の加速で一歩前に出られてしまい、そのままフィニッシュ。結果は5位であったが、攻めの気持ちを感じ取れるリレーであった。七大戦での部記録、表彰台に期待したい。

**女子 4×100mR 決勝**

**9位 52"72**

**下島(2)-中山(2)-千葉(1)-房内(3)**

コンディションは悪いが、記録に期待がかかる女子4継。

一走下島は素晴らしいスタート。インの福祉大に詰められるも快調に飛ばし2走の中山へ。エース区間で順位の変動が激しいが、粘りの走りで3走千葉へバトンを渡す。千葉はカーブで思うように加速できず、順位を落とすが懸命の走りでアンカーの房内へ。房内は力強い走りで前を追うが差を詰められきれず、9着でフィニッシュ。

今後51秒台は十分に狙える。部記録の更新と七大戦での表彰台が期待される。

**男子 4×400mR 予選**

**2-5 1着 3'23"58**

**岡崎(2)-千葉(1)-赤平(4)-高林(4)**

1走の岡崎は素晴らしいスタートダッシ



ユで他の選手を圧倒し、後半も譲らず 2 位以下に差をつけて 2 走千葉につなぐ。千葉は疲れもあったのか、後半減速してしまうも、先頭争いをしながら 3 走赤平へ。赤平は序盤からかなり飛ばし、最終コーナーを抜けてからも粘りの走りで持ちこたえ、トップでアンカー高林へ。高林は前半から余裕を持った大きな走りで快調に進む。後半も後続を寄せ付けることなく、1 着でフィニッシュ。決勝に向けて期待の持てる内容であった。

#### 男子 4×400mR 決勝

**6 位 3'21"40**

**赤平(4)-千葉(1)-高林(4)-田中(M2)**

部記録更新を狙うレース。1 走を走る予定だった岡崎(2)が走幅跳で負傷してしまい、急遽赤平が 1 走に。アンカーは 400m に出場した田中が走る。

赤平は予選に続き前半を飛ばす。アウトレーンの大学を捕えるが、後半失速し 7 位でバトンは 2 走千葉へ。軽快な走りで前を追い、差を詰めていく。最後は少し失速するが粘り、3 走高林につなぐ。この時に前を走るチームのトラブルに巻き込まれてしまうが、高林は動じず冷静に前を追う。ホームストレートで 1 チームを抜き、バトンをアンカー田中に託す。田中も前半から飛ばして前を懸命に追い、最後までペースは乱れなかったが及ばず、6 着でフィニッシュ。

目標としていた部記録の更新はならず悔しい結果となったが、今回のレースは必ず今後につながるだろう。

#### 女子 4×400mR 決勝

**9 位 4'23"00**

**下島(2)-房内(3)-星(2)-千葉(1)**

1 走下島は両脇に序盤大きく離されるが

後半は持ちこたえ、2 走房内へ。房内はバックストレートで前の選手に少し離されるも、200m 過ぎから粘りの走りで 3 走の星へバトンパス。星はスタートから快調に飛ばすが、なかなか前との差が詰まらず後半は苦しくなる。最後は必死に腕を振り、アンカー1 年生の千葉につなぐ。千葉は軽快な走りで前を追うが及ばず、9 着でフィニッシュ。

4 継と同様、調子を上げていけばこちらも部記録を狙えるだろう。

#### フィールド

#### 男子走高跳 決勝

**2 位 山田 健太郎(1) 1m91**

**7 位 奥 裕之(2) 1m75**

**8 位 永井 雅人(D4) 1m70**

期待のルーキー山田と、力をつけてきた奥、経験豊富な永井が出場。

山田は 1m85 からの跳躍。これを危なげなく一発クリア。続く 1m88 も余裕を持って 1 回目でクリアする。優勝争いするもう一人の選手が 1m91 をパスしてプレッシャーのかかる中、1m91 の 1 回目は頂点が合わず失敗するも、2 回目で見事に修正。この高さをクリアする。1m94 は、高さの出ている跳躍はあったもののクリアランスで惜しくも落としてしまい、クリアならず。しかし 1 年生にして大舞台で表彰台を勝ち取った。

奥は 1m75 からスタートしたが、なかなか跳躍が噛み合わず 2 回失敗してしまう。3 回目でなんとか修正を効かせてクリアするも、1m80 では再び跳躍に乱れが生じ、クリアならず 7 位。越えていく力はあるだけに、悔しい結果となった。

永井は 1m70 を 1 回で危なげなくクリア。しかし 1m75 では速い助走から高さのある

跳躍ができずクリアならず。8位に終わった。

#### 女子走高跳 決勝

#### 7位 安部 瑛里奈(1) 1m45

新戦力の一年生安部。1m45からの跳躍となる。助走からの流れも良く、頂点もピッタリ合って一発クリア。その勢いで1m50もクリアしたいところだったが、1、2本目は高さが出ず、3本目は助走が最後で少し乱れて噛み合わず、クリアはならなかった。

これから調子を上げていって、ベスト、そして部記録を狙っていきたい。

#### 男子棒高跳 決勝

#### 4位 高橋 理寛(3) 4m40

#### 8位 佐藤 裕貴(2) 3m70

高橋と佐藤の2人が出場。2人とも今シーズン初戦となる。

高橋は4m30からスタート。助走に少し勢いが無かったが、さすがの技術で危なげなく1回目でクリア。次の4m40では助走が前の跳躍よりも良く、空中動作も素晴らしい跳躍。問題なく4m40をクリアした。しかし4m50では助走が安定せず跳躍に持っていけない。改善が間に合わず、3回失敗。4位となった。

自己ベストが期待される佐藤。大学ベストの3m60からの跳躍。1本目は足が合わなかったのか跳躍できず、2本目は頂点が合わず失敗。しかし3本目に見事に合わせてクリアした。3m70も1、2本目を失敗するも、3本目で素晴らしい集中力を見せ、高さのある跳躍でピッタリ合わせてクリア。大学ベストを更新する。ここまではなかなかの修正力を見せてきた佐藤であったが、3m80ではうまく調整できず3回失敗。8位となった。

#### 男子走幅跳 決勝

#### 4位 鈴木 一輝(4) 7m03(-0.5)

#### 10位 岡崎 和貴(2) 6m65(+0.8)

#### 13位 安井 令(3) 6m51(+1.1)

鈴木、岡崎、安井で得点を取りに行く。

鈴木は徐々に調子を上げ、3本目、キレのある助走からのダイナミックな跳躍で6m95。3位でベスト8に残る。そして4回目、勢いのある助走から高さの出る踏み切りを決め、大学ベストの7m03を跳ぶ。最後に一人に越され表彰台は逃したが4位。素晴らしい跳躍であった。

今シーズン記録会で既に7m06の自己ベストを記録している岡崎は1回目の跳躍で足を痛めてしまい、満足な跳躍ができず10位で競技を終え、悔しい結果となった。

跳躍PCの安井は、1回目の跳躍では踏み切り直前に足が詰まり減速してしまうが6m51の記録を残す。2回目でも途中まではリズムの良い助走だったが最後で減速し、思うような跳躍ができない。3回目は修正し、勢いのある助走からスムーズな流れで踏み切りにつなげた跳躍は、6m80付近。ベスト8に残ったと思われたが、ほんの少し踏切板を出ていてファール。惜しい跳躍であった。



鈴木の一躍の全身

#### 男子三段跳 決勝

#### 5位 大村 祐大(M1) 14m49(+0.4)

**7位 岡崎 和貴(2) 14m27(+1.7)**

**15位 田中 悠貴(2) 12m95(+1.5)**

今年から加入した M1 の大村と 2 年生の岡崎、田中の 3 人で挑む。

大村は 1 本目、踏切板を踏まずに跳躍したが 14m40 を記録。2 本目はステップで潰れるがジャンプでうまくまとめて 14m49。2 本目の記録で 3 位となりベスト 8 に残った。その後は足がうまく合わず、5 回目は 14m60 を越えるかという跳躍も見せたが惜しくもファール。最終的には 5 位となり、得点をもたらした。

岡崎は 2 回目、1 回目の跳躍でジャンプに伸びがなかったところを見事に修正して 14m20 の自己ベストを記録。6 位でベスト 8 に進出した。その後も助走と跳躍がうまく噛み合い勢いのある跳躍を見せ、最終跳躍ではピッタリの踏切からジャンプで少し上に浮きすぎてしまったものの 14m27 で再び自己ベスト。最終的には 7 位となった。

田中は助走がなかなか合わず苦しむ。1 回目は 15cm ほど余らせて踏み切り、助走の流れ自体は悪くなかったが着地で少し損をして 12m95。2 本目は板を踏めず約 30cm 前で踏み切り、ジャンプで崩れて 12m83。3 本目の跳躍は崩れることなくスムーズな跳躍であったがわずかにファール。ベスト 8 進出はならず、15 位に終わった。

#### 男子砲丸投 決勝

**9位 柳澤 邦彦(3) 12m23**

**16位 山崎 大志(2) 9m14**

**17位 酒井 利晃(1) 8m80**

PC の柳澤、冬季に力をつけてきた山崎、新戦力の 1 年生酒井が出場。

柳澤は、1 投目はリズムよくいい投擲で 12m23 を記録。しかし 2、3 投目と少し力み過ぎてフォームが崩れ、いい投げができ

なかった。9 位という結果だけに悔やまれる。

山崎は 3 回の投擲で徐々に記録を伸ばしていく集中力を見せる。特に 3 回目はリズムの良い動作からスムーズに力強く投擲につなげ、9m14 の自己ベストを記録。今後さらなる成長が期待される。

酒井は大学初試合だったせいかが入り過ぎ、思うような投擲ができない。3 投目は 9m を越えていたものの、サークル内で我慢できずファール。悔やまれる結果となったが、これからの期待したい。

#### 男子円盤投 決勝

**5位 柳澤 邦彦(3) 40m38**

**15位 石川 遼(1) 31m53**

**19位 山崎 大志(2) 28m99**

少し肌寒い中行われた円盤投決勝。柳澤と、山崎、1 年生の酒井が出場。

柳澤は練習投擲では 43m 近い投げがあったが、本番ではうまく投げがまとまらず、1 投目はファール。その後少しずつ調整し 3 投目になんとか 40m38 を投げるが、納得はできない投げであった。決勝でも記録を伸ばせず、5 位。全カレを狙える力は十分にあっただけに悔やまれる。七大戦での奮起に期待したい。

石川は 1 投目から力強い投げ。31m53 を投げる。2 投目での記録更新が見込まれたがやや力みが出て伸び悩んでしまった。しかし記録は 30m 付近で安定しており、これからどんどん記録を更新してくれるだろう。

山崎は 2 投目で自己ベストの 28m99 を記録したが、全体的に納得のいく投擲ができなかった。練習では 30m を越える投げもを見せていただけに悔やまれる。力をつけてきているので、あとは一発が欲しいところ。

#### 男子ハンマー投 決勝

### 13位 田澤 央充(4) 18m49

天候は薄曇りと前日より回復したものの、サークルは湿っており滑りやすい状態。ハンマー投げ初出場の田澤が挑む。

1投目はサークルと緊張の影響かファール。2投目もうまく立て直せずファール。しかし3投目は気持ちを入れ替え思い切りのよい投げを見せ、18m49を記録。本人にとっては不本意かもしれないが、最後に立て直して記録を残したのは評価できる。今後練習を重ね、七大戦では思い切りのよい投げを見せてくれることを期待したい。

#### 男子やり投 決勝

10位 伊藤 泰彬(1) 45m70

11位 高橋 航(2) 45m04

13位 杉本 和志(4) 43m43

部記録保持者の杉本、去年からまた力をつけてきた高橋、60m級の新戦力伊藤が出場。大雨の中、やり投げにはかなりつらいコンディションとなった。

伊藤は1投目、大雨の中少しバランスを崩しつつも力強く投げ、45m70を記録。2、3投目は雨で滑り、苦戦した。不本意な結果であったが、いい経験になったであろう。

高橋も大雨に苦戦し、思うような投げがまったくできなかった。今後期待したい。

注目された杉本だったが、雨に対応できず3投とも抜けてしまい悔やまれる結果となった。この分、七大戦での爆発が期待される。

#### 男子十種競技

2位 藤井 翼(3) 総合得点 5191

11"90(-0.6)-6m48(+2.3)-9m46-1m65-53"61-

17"11(-0.4)-24m89-3m30-30m28-5'10"22

12位 八柳 暁(3) 総合得点 3806

12"04(-0.6)-5m54(+1.2)-8m56-NM-54"56-

19"83(-0.4)-25m21-NM-37m83-5'08"71

渋谷は怪我の影響で混成への出場を断念。藤井と八柳の2人で挑む。

藤井は初日、100mはいまいちだったものの最近安定して記録を伸ばしてきている走幅跳で稼ぎ、砲丸では自己ベストを記録。走高跳は1m70を惜しくも失敗するが、まずまずの出来で折り返す。二日目は終始大雨で、混成競技には厳しい環境。ハードルはなんとか無難に越えたものの円盤投、棒高跳、やり投げで思うような競技ができず、2位。全カレが見えていただけに悔しい結果となったが、確実に力は付けてきているのでこれからの期待したい。

八柳は走高跳と棒高跳でしっかり記録を残せるかどうかポイントであったが、残念ながら記録を残すことはできなかった。得意種目のはずの1500mでも得点を稼げず、無念の12位。しかし砲丸投、円盤投で自己ベストを記録するなど収穫はあったので、次こそはしっかり10種競技をやり切って総合自己ベストを出してほしいところ。

#### 女子七種競技

9位 星 麻沙美(2) 総合得点 2555

19"09(-0.9)-1m40-6m23-31"58(-1.7)

4m27(+1.4)-16m11-2'55"27

2年生の星が、大学に入ってから初の混成競技に出場。2日目が豪雨となるなど過酷な中での競技だったが、7種目しっかりとやりきった。得意種目の走高跳で得点を稼いだ。走り種目で得点を伸ばせず。投擲は練習次第で、これからの期待できる。9位となり惜しくも得点できなかったのが悔やまれるが、これからも混成競技を続けてほしい。

## # 七大学対校戦の展望

いよいよ待ちに待った七大学対校戦の季節がやってきました。今年の会場は北海道の厚別陸上競技場です。総合優勝を目指して頑張りますので、是非応援にお越し下さい。

今年のそれぞれの種目の出場メンバー(変更の可能性あり)を発表致します。紹介文は筆者の主観ですのでご了承ください。

### ● 男子 100m

**伊藤亮輔(3) 畠山真慈(3) 小林大亮(1)**

冬を経て力をつけてきた伊藤と畠山。10秒台を出す力があり、本番の爆發力に期待。小林は自己ベストが10秒台であり、復調によっては活躍が期待できる。

### ● 男子 200m

**鈴木一輝(4) 伊藤亮輔(3) 吉羽正太(1)**

鈴木は去年以上の成績を狙える位置にいる。伊藤も22秒前半を出せれば表彰台が見えてくる。吉羽の代わりに調子を上げてきている畠山の出場が濃厚。

### ● 男子 400m

**高林佑輔(4) 赤平和紀(4) 高橋純(3)**

インカレでベストを出した高林は48秒台を記録すれば頂点が見えてくる。その力は十分にある。赤平はこの春先に急激に力を伸ばしてきており、本番での爆發力に期待。高橋は南共哉(2)の怪我からの回復状態によって交代の可能性があるが、出場する場合去年の雪辱を晴らしてほしいところ。

### ● 男子 800m

**辻川優祐(3) 金子修平(2) 荒川和哉(2)**

昨年8位で苦汁を味わったPC辻川。今年は力十分。雪辱を果たしに行く。金子もスピードがあり、得点に絡んでいきたいところ。荒川は最近不調に悩まされているが、持っている地力は辻川に引けを取らない。本番での復活が期待される。

### ● 男子 1500m

**大野良輔(3) 三上和樹(2) 藤澤萌人(2)**

インカレメンバーの3人。その力はインカレで証明されており、3人そろっての得点が期待される。特に三上は今シーズン既に2回3分台を記録しており、優勝候補である。

### ● 男子 5000m

**尾形洋平(4) 菅野均(3) 木村慎太郎(3)**

菅野はさらにベストを更新する走りができれば、得点が期待できる。尾形と木村は持ち前のスピードが生かせればチャンスがある。

### ● 男子 110mH

**渋谷知暉(3) 向出周太(2) 千葉優人(1)**

昨年決勝に残っている渋谷がベストを更新して勢いがあり、表彰台は堅い。向出も表彰台を取る実力があり、ルーキーの千葉も得点に絡むだろう。

### ● 男子 400mH

**藤井翼(3) 向出周太(2) 千葉優人(1)**

なんといっても1年生の千葉。自己ベストは51秒台で、復調さえすれば優勝は彼のものだろう。藤井と向出にとっては厳しい戦いになるが、両者走力は以前より上げてきているので得点に絡んでいきたいところ。

### ● 3000mSC

**尾形翔平(3) 深渡慎一郎(2)**

深渡は実力を発揮できれば表彰台は間違いなく、優勝が期待される。尾形は復調すれば深渡に負けじと劣らない実力の持ち主。PCの意地を見せられるか。

● **男子 4×100mR**

高林(4) 鈴木一(4) 伊藤(3) 畠山(3)

岡崎(2) 小林(1)

インカレでは 42 秒台だったが、41 秒台を出してくるのは間違いないだろう。各々最高のパフォーマンスとバトンパスを決めて部記録更新が達成できれば、表彰台、そして頂点も見えてくる。

● **男子 4×400mR**

高林(4) 赤平(4) 高橋(3) 南(2)

岡崎(2) 千葉(1)

昨年北大に苦汁を飲まされ 2 位だったこの種目。今年は各々が走力をレベルアップさせており、新戦力の千葉の存在も大きい。全員が 50 秒を切るラップで回る実力がある。最終種目でもあるのでトップを取って締めたいところ。こちらも部記録を狙っていく。

● **男子走高跳**

奥裕之(2) 山田健太郎(1) 岡部大輝(1)

山田はインカレで 1m91 を記録しており、表彰台が期待できる。奥は激戦の 1m80~85 をクリアできる実力は十分にあり、上位に食い込むことが予想される。岡部は高校時代 1m98 を跳んでいる実力者。ブランクを如何に埋めてくるか。

● **男子棒高跳**

高橋理寛(3) 藤井翼(3) 佐藤裕貴(2)

昨年苦汁を飲まれた高橋の奮起が肝。1 年時の栄光を取り戻すことができるか。得点には 4m20 あたりの記録が必要とされ、藤井と佐藤には自己ベストの大幅更新が求められる。

● **男子走幅跳**

鈴木一輝(3) 安井令(2) 岡崎和貴(1)

大量得点が期待される種目。鈴木、岡崎は表彰台を取りに行く。昨年優勝の京大・西村を越えることができるか。安井は今シーズンとところどころで素晴らしい跳躍を見

せており、鈴木、岡崎に負けじと上位を狙う。

● **男子三段跳**

岡崎和貴(2) 田中悠貴(2) 森田貴大(2)

インカレでベストを更新していて勢いのある岡崎が阪大の牙城を崩しに行く。田中、森田はベストを更新すれば得点の可能性もある。

● **男子砲丸投**

柳澤邦彦(3) 山崎大志(2) 酒井利晃(1)

なんといっても昨年優勝の柳澤の連覇に注目。山崎と酒井は厳しい戦いになりそうだが、奮起に期待したい。

● **男子円盤投**

柳澤邦彦(3) 山崎大志(2) 石川遼(1)

3 連覇を狙う柳澤。今シーズンは不調が続いているが、それでも実力は圧倒的だろう。石川はインカレからさらにベストを更新できれば得点が見える。山崎も練習では 30m オーバーの投擲を見せており、石川と共に得点を目指す。

● **男子ハンマー投**

田澤央充(4) 柳澤邦彦(3) 山崎大志(2)

柳澤は昨年以上の得点が期待される。上位人との差はあるが、どこまで伸ばせるか。田澤、山崎は得点を獲得するには 30m が最低条件。本番での奮起に期待である。

● **男子やり投**

杉本和志(4) 高橋航(2) 伊藤泰彬(1)

杉本に注目が集まる種目。最近思うような投げができずにいるが、しっかりと調整してくるだろう。自身の持つ大会記録更新、そして連覇の達成が期待される。高橋も力をつけ、自己ベストの更新で表彰台が見える。伊藤は高校時代に 60m オーバーを記録しており、こちらも復調次第で表彰台か。

● **女子 100m**

**中山なつみ(2) 千葉愛里沙(1)**

中山は昨年決勝に進出しており、今年も得点が期待される。1年生の千葉も力があり、決勝進出と得点獲得を目指す。

● **女子 400m**

**房内まどか(2) 下島千歩(1)**

昨年同様、房内と下島の二人。得点には60秒フラット以上が要求される。二人とも自己ベストを更新する勢いがあれば得点が狙えるので奮起に期待したい。

● **女子 800m**

**荒木佳那子(4) 及川まりや(3)**

及川は優勝候補。実力を発揮すれば優勝の可能性は十分にある。最大の壁はやはり名大の鈴木か。荒木は女子主将の意地を見せて得点を取りたいところ。

● **女子 3000m**

**鈴木はるか(3) 鈴木絢子(1)**

鈴木はるかが本番に向けてどれだけ仕上げてくるかがポイント。自己ベストを更新して10分台の闘いに混ざっていれば得点が見えてくる。1年生の鈴木絢子もインカレ1500mで決勝進出する実力の持ち主であり、3000mの力は未知数だが得点に絡んでくる可能性は大きい。

● **女子 4×100mR**

**房内(3) 下島(2) 中山(2) 千葉(1)**

インカレの走りを見るに、実力を発揮すれば51秒台を出すことは十分に可能だろう。部記録を更新するような勢いがあれば、表彰台も見えてくる。

● **女子走高跳**

**星麻沙美(2) 安部瑛里奈(1)**

二人とも入賞が期待でき、星は1m45が跳べれば表彰台が見える。安部はすでに1m50を跳んでおり、優勝も射程圏内。1年生から栄光を掴むことができるか。二人で女子チームに大量得点をもたらしたいところ。

● **女子走幅跳**

**中山なつみ(2)**

怪我に悩む中山だが、5m台の自己ベストを越えるパフォーマンスができれば優勝が近づく。本番までにどこまで仕上げていけるかが鍵になる。

● **女子砲丸投**

**下島千歩(2) 星麻沙美(2)**

7種競技を経験している二人が出場。まだまだ発展途上なので、練習次第で化ける可能性あり。8mを投げれば得点争いに加わられるだろう。

## #全日本大学駅伝・女子駅伝東北地区予選の抱負

7月17日に全日本大学駅伝・女子駅伝の東北地区予選が仙台大学で行われます。男子にとっては、一昨年ぶりの全日本大学駅伝への出場権を獲得するための重要な大会です。女子はオープンでの出場となりますが、七大戦へ向けて勢いづけていきたいところです。まだ確定ではありませんが出場メンバーを発表します。

### ● 男子 出場メンバー

|           |           |
|-----------|-----------|
| 新田 和樹(M2) | 森部 俊介(3)  |
| 尾形 翔平(3)  | 藤澤 萌人(2)  |
| 菅野 均(3)   | 深渡 慎一郎(2) |
| 木村 慎太郎(3) | 山本 悠平(2)  |
| 石代 剛之(3)  | 斎藤 寛峻(2)  |
| 田辺 明(2)   |           |

### ● 女子 オープン出場者

|           |
|-----------|
| 及川 まりや(3) |
| 小高 真依(3)  |
| 鈴木 はるか(3) |
| 石井 花織(2)  |
| 鈴木 絢子(1)  |

宮城大：村松 純(2)

もオープンに出場。

## 長距離 PC から抱負

### 尾形 翔平(3)

昨年の子選会で味わった悔しい思いをバネに、今年こそ全日本大学駅伝に出場できるようにと、これまで練習に励んできました。今年は世代交代の年ということで、去年までと比べて大幅にメンバーが変わり、2、3年生が中心となる若いチーム編成となりましたが、今シーズンに入って自己ベストを更新している菅野や深渡、山本など、勢いのあるメンバーが多数揃っています。ほとんどのメンバーが初めての予選会となりますが、他大学の強力な選手にも積極的に食らいついていく気持ちで臨みます。絶対的エースが不在の状況の中だからこそ、全員で（選手だけでなく、チーム全員で）力を合わせて優勝を目指したいと思います。応援よろしくをお願いします。



## # 自己記録更新者一覧(3/7~5/16)

### 男子

#### ・100m

畠山 真慈(3) 11"36 (東北インカレ)

#### ・200m

伊藤 亮輔(3) 22"50 (東北インカレ)

#### ・400m

高林 佑輔(4) 49"60 (東北インカレ)

#### ・1500m

三上 和樹(2) 3'59"45 (第217回日体大競技会)

藤澤 萌人(2) 4'03"65 (東北インカレ)

大野 良輔(3) 4'06"42 (〃)

山根 由経(2) 4'15"41 (仙台市陸上競技会第16回長距離・跳躍・投擲競技会)

高田 健吾(2) 4'19"84 (〃)

#### ・3000m

菅野 均(2) 8'57"77 (仙台市陸上競技会第16回長距離・跳躍・投擲競技会)

工藤 佑馬(4) 9'30"23 (〃)

#### ・5000m

深渡 慎一郎(2) 15'18"30 (第217回日体大競技会)

菅野 均(3) 15'18"86 (東北インカレ)

木村 慎太郎(3) 15'29"33 (第216回日体大競技会)

森部 峻介(3) 16'00"03 (〃)

杉山 祥太郎(2) 16'17"63 (学連春季)

#### ・10000m

山本 悠平(2) 32'53"47 (東北インカレ)

#### ・110mH

渋谷 知暉(3) 15"40 (山形県選)

#### ・走幅跳

鈴木 一輝(4) 7m11 (第36回平成国際大学記録会)

岡崎 和貴(2) 7m06 (仙台市陸上競技会第16回長距離・跳躍・投擲競技会)

藤井 翼(3) 6m59 (〃)

八柳 暁(3) 5m62 (〃)

#### ・三段跳

岡崎 和貴(2) 14m27 (東北インカレ)

#### ・円盤投

石川 遼(1) 31m53 (東北インカレ)

|          |       |          |
|----------|-------|----------|
| 山崎 大志(2) | 28m99 | (〃)      |
| 八柳 暁(3)  | 25m21 | (〃)      |
| ・砲丸投     |       |          |
| 山崎 大志(2) | 9m14  | (東北インカレ) |
| 八柳 暁(3)  | 8m56  | (〃)      |

## 女子

|          |          |          |
|----------|----------|----------|
| ・1500m   |          |          |
| 石井 花織(2) | 5'39"66  | (東北インカレ) |
| ・5000m   |          |          |
| 村松 純(2)  | 18'36"95 | (東北インカレ) |

## #OB・OGの皆様へ寄付金のお願い

OB・OGの皆様へ

元主将一同(H11～H23年卒)

七大戦に向けての現役部員へのご寄付のお願い

拝啓 皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、七大戦まで1カ月を切りました。今年は東日本大震災の影響を受ける状況の下、現役部員は大会へ向け例年以上に努力を重ねております。先日、現主将である杉本に連絡を取ったところ、部室や器具などに被害は無いが、東北地区で開催される大会が宮城で行えないことから、全ての大会において遠征費がかかっていると聞きました。さらに、今年の七大戦は交通の便が悪いことに加え、例年であれば実施される各種の割引が震災の影響で無く、金銭的に苦しい状況です。

そこで、OB・OGの皆様方には、現役部員への一層のご寄付を賜りたく、お願い申し上げます。厳しい状況に負けず、前を向いて戦っている部員達へ、是非ともお力添えいただけますでしょうか。

これから会費をお納め頂く方々については、三秀会費、寄附金として適切にお取り扱い致します。既に例年より多くの会費・ご寄付をお納めいただいた方には、度重なり申し訳ありませんが、お気持ち程度で構いませんので、ご高配のほど、よろしく願い申し上げます。

なお、寄付金額及び振り込み先は下記の通り三秀会費と同様とさせていただきます。期日は8月末までとさせていただきます。それ以降のお振り込みは通常通りの会費とさせていただきます。

勿論、当日会場でも受け付けております。(現役部員へお声掛けください。)

ご協力の程、宜しく願い申し上げます。熱い七大戦をサポートしましょう！！

(時間があまり無く、H11～H23年卒までの主将からのみ賛同を得ております。  
それ以前の各主将の方からもご協力いただけると確信しており、この様な書き方をさせていただきますことをご容赦願います。)

(1) 郵便振込

送金先：郵便振替口座番号 02270-3-9099

口座名：東北大学 陸上競技部 三秀会

- ・金額の前に¥記号をつけないでください。
- ・口座番号は右詰めでご記入ください。
- ・通信欄に下記事項を必ず明記してください。

氏名 (卒業年度)

入金金額 円 内訳 (会費 その他 )

(2) 銀行振込

振込にはご本人名義でお願いいたします。

口座番号：りそな銀行 仙台支店 普通 315-1305830

口座名義人：三秀会

(3) クレジットカード

VISA、MASTERCARD、DCカードでの送金が可能です。

郵便またはFAXにて送金通知票を幹事《岩松正記》宛にお送りください。

連絡先 岩松 正記

〒983-0816 仙台市宮城野区小田原金剛院丁5-1 ロイヤルビル6階

Tel: 022-355-7620 // Fax: 022-355-7619

クレジットカード 送金票通知票

振込者氏名

( 年卒)

クレジットカードの種類  VISA  MASTER CARD  DCカード

クレジットカード番号

有効期限 年 月

カード所有者氏名 (上記氏名と異なる場合、お名前をお書きください。)

カード所有者署名

入金金額 円 内訳 (会費 その他 )

## #平成21年度卒業OB・OGの方々からのご支援について

平成21年度卒業OB・OGの方々から、ご支援を頂戴致しました。感謝致します。  
ご期待に応えられるよう、部員一丸となって精進していく所存です。  
ご支援の目録は以下のとおりです。

目録

- ・のぼり旗 30枚
- ・のぼり竿 30本
- ・のぼり立て台 10台
- ・震災見舞金 3万円

早期のご復興と今後のご活躍を祈願し、右の通り贈呈致します。

平成23年5月14日 平成21年度卒業生一同  
東北大学陸上競技部 様

## #今後の予定

7月17日 秩父宮杯第43回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会  
兼 第29回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会  
兼 第23回出雲全日本選抜駅伝競走代表最終選考会 仙台大学  
7月23～24日 七大学対抗戦 北海道・厚別陸上競技場

## #編集後記

東北インカレが終わり、全日全女予選会、そして七大戦が近づいてきました。

人数は昨年ほどではありませんが今年も新生が入り、部室の中が非常に賑やかになっています。個性あふれる面子で、この先が楽しみです。個性だけでなく実力もなかなかで、対抗戦などでの活躍も期待されるでしょう。東北インカレでは震災の影響を感じさせないような見事なパフォーマンスがいくつも見られ、東北大学の強さを感じました。全日予選会・七大戦とさらに大一番が続いていきます。ここをものにして、他大学に我々の強さを知らしめていきたいところです。

非常に暑い日が続きます。去年は汗をだらだらかきながら青葉山を登っていましたが、今年は原付で切る風が逆に気持ちいいです。しかし講義室は相変わらず暑いですが……。そんなこと言ってもらえません。七大戦で勝てるのは、一番アツい大学です！この程度の暑さ私たちの熱い思いでかき消して、頂点取りに行きましょう！

文責 副務 八柳 暁